

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070800204		
法人名	有限会社 グループホーム 渋川		
事業所名	グループホーム 渋川の家		
所在地	群馬県 渋川市 金井 125-4		
自己評価作成日	平成28年4月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成28年5月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様一人一人の残存能力を尊重し、ご自分で出来るところは自分のペースでやっていただき、できること、やらないこと、できないことを把握し、できないところをお手伝いさせていただく。利用者様に対して待つことの大切さを認識し、できるかぎりの自己決定権を尊重した自立支援のケアに努め、一人一人が理念である、「明るく、楽しく、仲良く」時がゆっくりと過ぎて暮らせるよう日々務めています。またできるかぎりではありますが、ご自宅で生活してきた習慣やスタイルを大切に自宅と同じように生活できるよう勤めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は少し高台にあり、畑や近隣の人が散歩する様子が見える環境にあり、事業所横の池には錦鯉が見られる。線路が近くにあり電車の音が心地良い一方、危険のリスクもあり、管理者や職員は状況を十分把握して、日々の業務に注意を向けている。理念については、理念にある一つひとつの言葉の意味を掘り下げ、実践するにはどうしたらよいかを文章化して、全職員で共有している。利用者の担当職員制を採用していることで、利用者は担当職員に頼んだり相談しやすい関係が築かれ、職員は意識して担当の利用者に声かけをして希望や要望を把握するなど効果を出しており、職員のやりがい感にもつながっている。災害対策では、年2回の訓練の他に、事業所内で月1回の避難訓練を実施したり、職員は利用者「地震だったらどうするか」と声をかけて意識づけを行ったりして、対応できるようにしている。また、停電を体験してガスコンロを準備するなど、機会あるごとに見直しを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の大切さ、掘り下げ作業をケース会議内で実施。また掘り下げた内容にもどうすれば実行できるかを話し合い結果をご家族や来賓者にも見えるように掲示している。また経営者が変わるため新たな理念を作成する予定	理念に表れている言葉の一つひとつ「明るく」などを、実践するにはどうしたらよいかを職員で話し合い、実践に即した具体的な言葉として共有している。	経営者が変わるにより、理念の見直しが行われる予定なので、作成時は、経営者と管理者、スタッフで十分に話し合い創りあげ、今後も共有に努めることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年初めの道祖神祭りの参加や地区のお祭りにも参加し交流を深めている。職員の参加ではあるが年二回の道路清掃にも参加している。また年4回の広報も自治会長を通じ回覧板で廻してもらっている。	事業所の近くに畑がある農家から収穫した野菜を届けてもらったり、散歩をしながら挨拶や日常的な会話をしたりしている。その他、地域行事への参加や、回覧板で事業所の通信をまわしてもらい、地域の人々の消防訓練への参加の他、認知症等の相談が気軽にできるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の理解、介護保険についてなど話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	消防訓練にも立ち会ってもらい、夜勤一人体制での体制を理解してもらい、自治会3役の方たちには火災通報装置の連絡網に加わっていただいたり、役割を話し合った。	利用者家族は輪番で参加と利用者の参加があり、事業所の取り組みや現状を説明している。その他、外部評価の報告と改善点を検討し、自治会への協力依頼を行っている。議事録は詳細に記入されており、欠席の人でも理解できる内容となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類等の更新の時や運営推進会議の時など担当の市の職員の方から情報や相談をしている。またメールなどあった場合全職員に閲覧、感染症などのメールについてはケース会議内で勉強会を行った。	運営推進会議の他、認定更新や空き部屋ができた時などの相談事項は、担当者に行っている。感染症等色々な情報を得ながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	オムツ外しが頻繁な利用者様が入居し身体拘束についてケース会議内にて話し合い、なぜ拘束をしてはならないのか？拘束をすることにより生まれるリスクなど…話し合い拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠はサムターンに変えて出られるようにしている。夜間は施錠している。	管理者は、何が身体拘束にあたるか、利用者にとってどうかを、課題毎にスタッフと話し合い介護の工夫を行っている。拘束をしないケアでは、予測できないリスクもあり、運営推進会議で議題にして、家族等と検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止ツールを使い施設内研修を行い、言動や行動にも虐待になることを再認識し、互いに職員の行動をチェックし防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	双方に該当する方が入居されており、月1回ではあるが、生活実態と健康状況を報告、相談している。また後見人制度を活用したいが、なかなか実現できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、文章にして報告を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情」の受付をしているが、なかなか出してもらえないため、ご家族が職員に対し要望があった場合、要望書を作り、全職員情報を回覧しケース会議で話し合った結果をまたご家族様に報告している。また利用者様の訴えがあった場合にも要望書を作成している。その際にもご家族や後見人にも伝えている	面会時や月1回の利用料の支払いを家族に持参して頂き、その際に意見や要望、苦情等がないかを確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケース会議の中で話す機会を設けている。	職員は、日常的に管理者に意見や要望を伝え、管理者は、全体で話し合うことは、ケース会議の議題にして検討を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	地域密着型連絡協議会における勉強会などには積極的に参加している。同じグループホームでの悩みなど、共通理解することでやりがいにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員より行きたい研修があれば、なるべく参加ができるように勤務の調整を行っている。またケース会議内にて問題点があれば随時施設内研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会における交換研修に参加し、ケース会議内で発表してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず自宅、病院へと出向きご本人と面接を行っている。そのときにはご家族様も同席をお願いし、当ホームでやりたいこと、希望などを聞いている。可能であれば事前に当ホームへの見学も行っている。またコミュニケーションを多く持つようし要望等を探っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にキーパーソンにお会いし、不安や要望に耳を傾け関係づくりに務めているが、なかなか要望は聴くことができないため様々な話のなかで要望を見出していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の話やご家族様の話、病院からの情報などADLや嗜好、習慣を聞き総合的に判断している。また他のサービス利用も含めた対応をしているがなかなか他のサービスにつながることは少ない		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	正面から誠実に笑顔を持って優しく声かけしふれあい共感すること、不安や孤独感があるときは、利用者が少しでも安心できるよう、寄り添うケアを実践している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が訪問時に普段の生活の様子などをありのままに報告し、ご家族にもアドバイスをいただいたりしているが、中には本人と家族の仲が悪い状況下にあるときには、できるかぎり本人と会うよう説得している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ボランティアの方から毎月絵手紙をいただき、時間を設けて紹介したり返事を年に何回か送っている。また利用者様のご近所の方が見えたときはまた来て貰える様に話をしている。お墓参りに家族といく利用者がいたり、一人暮らしだった利用者様には年に1回程度だが家まで連れて行き、仏壇に手を合わしたりしている	利用者が昔から週3～4回通っている蕎麦屋に、現在も月1回行き続けていることや、墓参りなど一人ひとりの生活習慣を尊重している。また、自宅に泊る希望の時は家族に協力依頼をしたり、近所に住む友人の面会時には継続的な来所を働きかけたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるかぎり仲がよい利用者様同士のテーブルについてもらっている。時にロゲン力があるが職員が仲裁に入っている。知的障害者の利用者が孤立しがちだが、職員が声かけを多くするなど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となり退居した利用者様の家族に必要なに応じてフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	大勢の中ではなかなか本人の思いを打ち明けづらいので居室やベランダなど職員と個別対応の希望、意向を聴きだしている。また担当制に担当する職員は出勤時に担当する利用者にもいつもより一言二言多く会話することにより、思いや意向を見出している。	夜勤時は、職員と利用者の二人の関係で、利用者が、利用者間での出来事や思いを打ち明けられる時間と捉え、支援している。意思疎通が困難な利用者には、顔色やいつもの行動とのちがいがから気づいたり、食事の食べ具合などから推し量ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス提供時にご家族様、ご本人に認知症ツールを使いこれまでの暮らしをできるかぎりではあるが把握している。また居室に思い出の品や好みの物を置いたり、昔の話をしたり落ち着いた生活が送れるよう務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	上記のこれまでの暮らしの把握をすることにより、できるかぎりではあるがこれまでの暮らし、過ごし方をしてもらっている。またバイタルチェック時に会話することにより心身の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制にし職員がモニタリング、アセスメント、ケアプランを作成している。また月1回のケース会議内においてカンファレンスを開催し、職員の意見を聴いている。またご家族の要望もその会議内で話しケアプランに反映させている	介護計画は、利用者を担当する職員がケアプランを考え、ケアマネージャーが作成している。職員は担当する利用者には、より関心を持ち声かけをしながら要望を聞き、他の職員の意見や提案を参考にして、計画の修正や評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや業務日誌は必ず全職員に捺印をもらっている。事故報告書の再発防止策やヒヤリは5日間必ず申し送りしている。また日々の個別記録についてケアプランに基づいてチェックシートがあり、できたかできないかをチェックしている。担当者はこのチェックシートやモニタリング、アセスメント、事故報告書やヒヤリハットを活かしケアプランを作成している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急搬送時の病院との提携や訪問看護の連携で救急時、健康面をバックアップしている。 また面会時や毎月の支払時などに本人の様子や状況など話し合い変化に応じて対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行うどんど焼きに参加したり、ボランティアで定期的に絵葉書を一人一人に頂き職員が読み居室に貼り楽しみの一つとなっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医のかかりつけ医による往診は隔週1回、別のかかりつけ医となっている利用者様は月1~2回受診へ行っている。必要時に応じてご家族様に報告している	利用者は、協力医とこれまでのかかりつけ医に受診をする人がおり、本人や家族の希望になっている。かかりつけ医の受診は、家族が通院介助をしている場合と職員が介助している場合があり、家族への報告は、定期受診で問題ない時は、家族の来訪時に受診状況を報告することを家族と相談している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日に訪問看護が訪問している。また緊急時にも訪問してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にすぐ対応できるように緊急ファイルを作っている。薬情や情報提供書、保険書のコピーなどファイルに綴じている。また退院時の様子や日程の調整など行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取り介護の方1名。早い段階で看取りと位置付け、施設と訪看でターミナルケア会議を開催し、その内容を主治医に説明し、ケース会議にてターミナルケア会議の内容を再度確認。遠方に住んでいるキーパーソン(前橋市に住んでいるが高齢のため出向けず。)後日管理者と事務長で出向き現状をお話し会議の内容を話し承諾を得ている。	重度化した場合や終末期のあり方については、早い段階から家族と相談し訪問看護や医師の協力を得ながら、話し合い取り組んでいる。スタッフとは本人にとってどうあったらよいかを話し合いながら、不安への対応も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し定期的に見直しをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回職員を変えて夜間想定避難訓練を実施している。また以前の災害時の教訓をもとに水分と食料を確保している	消防署との年2回の避難訓練の他、事業所内で毎月1回の避難訓練を実施している。職員は「あっ地震だ、どうする?」と声をかけ、利用者が机の下に隠れるなど、災害時に行動できるよう取り組んでいる。自治会の役員には、避難訓練の参加と連絡網に加わって頂くなど、地域の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入るときのノックやトイレでの利用者へ羞恥心の配慮、利用者様への接し方、大声をださないなどの配慮をしている。	利用者一人ひとりのこれまでの生活や背景も含め本人の気持ちを大切にしながら、さりげない声かけや介助を行っている。特に羞恥心への配慮として、トイレの誘導などは小さな声で話しかけたり、入浴の異性介助を嫌がる方には同性介助を行ったりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員への気遣いがある利用者などは、事前にアセスメントした内容(その人の生活習慣や嗜好などを把握し、思いや希望を表しやすしたり、洋服や飲み物など自己決定ができるよう働きかけている。また自己決定ができない利用者様は二択にするなど心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるかぎりではあるが、夜間眠れなかったら起きてもらったり朝遅く起きたりしている。入浴も拒否があったら次の日と工夫している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットも本人の希望を聞いたり白髪を染めたり、ヘアピン、ヘアキャップなど今まで家でしてきたことをなるべく施設でもできるようにお手伝いしている。自立できない利用者はタオルで毎日顔を拭いている。マフラーの色、服など本人と相談し着てもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昔の思い出でおはぎを職員と一緒に作ったり、毎日習慣で朝梅干を食べていた利用者様には毎朝梅干を提供したり嫌いな食べ物があれば別の品を提供したりしている。また食器拭き、お盆拭きは利用者様に手伝ってもらっている。	習慣でいつも梅干を食べている人にはそっと追加したり、好みの調味料を希望によりかけたり、おいしく食べられるようにしている。食後の食器拭きは、利用者が楽しみのように手伝っている。季節の行事食では、おはぎやおやき作りを職員と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	居室にペットボトルで水を置く利用者様がいたり、嗜好品でジュースを提供したりしている。またアイスを1日何本も食べる利用者(習慣)にはアイスを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実践している。手渡しすれば歯を磨ける方、ジェスチャーで歯を磨ける方など本人の力に応じて口腔ケアをしている。また入れ歯洗浄剤も夜間につけると不穏になる方には日中つけたり対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のADLの状況を把握してトイレ誘導やペースに合わせ出来ないところを介助している。またオムツの利用者様に対しトイレの訴えがあれば2人介助で行っている	おむつを使用している利用者にも食後や生活リズムに合わせて声をかけたり、うろうろする、腰に手を当てるなどの一人ひとりのサインを見ながらトイレ誘導を行ったりしている。利用者の力量にあわせリハビリパンツに変更したりと、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操をしたり、ヨーグルトやオリゴ糖も活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表に基づき週2~3回の入浴を基本としている。限られた範囲ではあるが、入浴時間も考慮している。一番風呂に入りたい利用者様やぬるい湯を好む利用者様は後に入ってもらっている	いつも一番風呂に入る、仲の良い人同士は一緒に入るなど、希望にそった支援をしている。入浴時は、職員と2人になる機会であり、リラックスして会話をしている。声をかけて気の進まない様子の利用者には、日を改めて声をかけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をしたいなど休みたいときに休んでもらっている。また温度調節やアイスノンを使用しないと眠れない利用者様には提供している。また夜間職員本位で寝せてはいない。眠れないときはホールで対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が薬を服用するまえに、職員同士で薬の日にち、時間、何錠あるかチェックし、服用直前には顔と、名前をチェックし服用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日めくりカレンダーをめくってもらったり、洗濯物をたたんでもらったり、編み物や貼り絵などしてもらっている。おはぎ作りなども行っている。個別に好みに応じジュースやコーヒー、アイスを食べる習慣の方はアイスを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気のいい日で職員の人が多い日など散歩したり買い物希望があれば、個々で出かけたり、家族にも外出できる方はお願いしている。	外食やお弁当を持って出かけたり、事業所周围を2~3人で散歩したり、湿布等買い物のある人は薬局や100円ショップに出掛けたりと、一人ひとりの習慣や希望にあわせ支援している。広いベランダには肘掛け椅子があり、寒い日や暑い日、雨の日などは過ごせるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物や買い物希望があればご家族様に了解を得てから買い物に行ったり職員が代行したりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の都合上、勝手に電話はできないが、ご家族から電話が来たときには、たとえ別件でかかってきた場合にも、お願いをし電話で会話をしてもらうこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に職員と入居者の共同作業による干支の貼り絵を飾っている。また廊下には行事でとった写真を貼りだしてある。たたみとこたつもあり冬場はこたつへ入る利用者もいる。トイレもわかりやすく表示してある	広々したベランダにはくつろげる椅子が置かれ、少し高い位置に事業所があり、周囲の山々や畑などが見渡せる。居間に続く畳の場所にはコタツがあり、寝転ぶこともできる。	季節により菊などがベランダに飾られている様子が写真で確認できたが、居心地のよさや心身の活力を引き出す季節感のあるものを暮らしの場に整えられるとさらに良いかと工夫を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者差様には座席を一緒にしたり、利用者の中には独りを好む利用者もいるので、工夫している。また利用者同士のトラブルもあるので席を離したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはボランティアからくる絵手紙や家族の写真などを飾っている。また本人の好むカレンダーなども貼ってある。花が好きな利用者様には花を。思い出の品など置く利用者様もいる	仏壇やタンス・カーペットなどがそれぞれに置かれたり、家族の写真が飾ってあったり、花の好きな人に家族が花を持ってきたり、居室づくりが行われている。また、利用者の身体状況に考慮して、スムーズに動けるように入口やベッド周りなどの配慮を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわからない利用者でも見やすい位置に表札を作ったり、トイレもわかりやすく表示してある。座席がわからない利用者には名前をテーブルに貼ったりと工夫をしている		